

日本小児科学会こどもの生活環境改善委員会

Injury Alert (傷害注意速報)

No. 20 ローラー滑り台による股関節脱臼

事例	年齢：3歳1か月 性：男児 体重：15kg	
傷害の種類	関節脱臼	
原因対象物	ローラーすべり台	
臨床診断名	左外傷性股関節脱臼	
発生状況	発生場所	公園のローラーすべり台
	周囲の人・状況	母親と公園に遊びに来ており、裸足でローラーすべり台を滑降
	発生時刻	2010年3月3日午後3時半頃
	発生時の詳しい様子と経緯	母親と2人で、いつもの慣れた近所の公園に遊びに来ていた。1人でローラーすべり台の階段を上るところまでは母親が目撃した。滑り降りるところは見えていなかった。その後、20mほど滑り降りた滑り台の末端上で泣いている児を母親が発見した。左足を全く動かさなかったため、救急車を要請して当院受診となった。すべり台のローラー部分は4か月前に老朽化の為に改修されたばかりで、スピードが出やすく滑りやすい状態であった。また児は裸足でローラーすべり台を利用していた。
治療経過と予後	レントゲンにて左股関節後方脱臼を認め、外来にて徒手整復を施行した。以後、入院にて4週間にわたって介達牽引し、受傷6週間後より歩行開始となった。	

【こどもの生活環境改善委員会からのコメント】

1. 滑り台の末端上で発見されたので、脱臼は滑り台の中で発生したと考えられる。
2. 滑り台の写真をみると、何か所か曲がっている箇所がある。速度がついた状態で、左足が右に湾曲した滑り台の側壁部分にぶつかり、その力が強かったために股関節が脱臼したと思われる。最後に湾曲している部分で加速度は最も大きいと考えられ、その部分で脱臼した可能性が高い。
3. 子どもの体重、滑り台の傾斜角度、滑る面の摩擦係数、衝突時に湾曲部で発生する力などについて検証する必要がある。
4. 裸足では、滑り台側面にぶつかったときに大きな衝撃力を受けやすかったとも考えられる。
5. 同じような事例があるかを調べ、滑り台の傾斜、最大加速度、湾曲部の構造などについて検証する必要がある。

